

## 平成23年度第2回募集 木のまち整備促進事業 採択プロジェクト一覧

No.	補助種別	プロジェクト名称	建設地	提案者 (建築主等)	講評
1	木造化	大阪木材仲買会館新築	大阪府 大阪市 西区	大阪木材仲買協同組合	<p>カラマツ集成材の荷重支持部と燃えしろ層の間にモルタルの燃え止まり層を挿入した「3層構造耐火集成材」による構造架構を採用した、都市部の木造ビルのモデルプロジェクトとなることを目指す計画。</p> <p>「3層構造耐火集成材」については、使用例が少なく、柱-梁接合部の設計方法が確立されていないことから、今回のプロジェクトを通じて柱-梁接合部の構造性能を確認することにより、設計方法の確立に取り組む。さらに、通常、設計に当たって独立した構造要素として考慮されている梁とRCスラブについて、これらを一体の構造として取り扱った場合の梁とRCスラブの合成効果の考慮・評価に取り組む。これらの取組により、梁断面の合理化による広い室内空間の確保や製造コストの低減を図り、当該耐火集成材の普及促進を行う。</p> <p>また、一般に流通しているスギ製材と構造用合板を用いた木製格子壁を耐震壁として配置する計画であり、この木製格子壁は耐震要素以外にも、展示棚、間仕切壁、照明器具の役割も果たすなど新しい試みとなっている。</p> <p>このほか、風雨から木製サッシ等の木製外装を保護するとともに、再塗装、清掃等のメンテナンス時の足場として活用することができる軒庇を兼ねたバルコニーを配置する計画としている。この軒庇兼バルコニーは木製外装の保護だけでなく、火災時の安全な避難経路の確保、上階延焼の防止といった防災面での役割、居室への日射制御など居住性の向上の役割も果たすこととなり、建築物の外装における木材利用のモデルとしても、他の参考となることが期待される。</p>
2	木造化	(仮称)コープさっぽろエコ店舗計画(枠組壁工法による大規模エコ店舗)	北海道 函館市	北海道環境サービス株式会社	<p>全国初となる枠組壁工法による大規模小売店舗(延べ床面積:約3,000㎡)の計画。</p> <p>一般に流通している4×6及び6×10規格寸法の集成材による枠組に構造用パネルを両面張りした耐力壁を複数個並列に緊結して一体とした柱型耐力壁(マルチウォール)や、最大スパン20mの木造屋根トラス構造を採用することにより、大スパンの空間を確保する計画。工場生産による木造トラスについては、これまで、工場から施工現場までの輸送の都合上、最大で12m程度までのスパンしか確保できなかったが、現場接合用機械を導入し、工場生産したトラスを現場で版状ユニットに接合してから施工する新たな施工システムの採用により、大スパンの木造屋根トラス構造を実現する。</p> <p>材料については、外壁下地、野地に加えて、枠組部材や屋根トラスにも北海道産材を使用するなど、地域材を積極的に利用することとしている。スギーカラマツ集成材については、これまで中大規模の建築物において使用事例がほとんどなかったが、具体的使用事例が示されることにより、今後スギ材の活用が期待される。</p>
3	木造化	新発田ガス新社屋建設工事	新潟県 新発田市	新発田ガス株式会社	<p>国産材を用いた軸組構法による木造3階建ての新社屋を建設する計画。</p> <p>新潟県が定めた含水率などの基準をクリアした「越後杉ブランド」の構造材、羽柄材、内装材、構造用合板を積極的に使用し、主要構造部は燃えしろ設計により準耐火構造(60分)とする。</p> <p>梁材については、スギ集成材では必要な強度性能を確保できないことから、通常であれば、カラマツ集成材などのより強度性能の高い部材を用いるところであるが、今回は可能な限りスギを活用するために、カラマツとスギとを集成加工した異樹種集成材を採用することとしている。</p> <p>また、事務所ビルとしての用途上、間取り変更に対応する必要のあるほか、燃えしろ設計により現しとなる構造部材を積極的に見せようとする試みから、外観正面をガラスのカーテンウォールとすることとし、木材によるプレース構造により耐力を確保。意匠的にも木材を見せることにこだわった木造3階建ての本格的な事務所ビルとして波及効果が期待される。</p>